荒川中だより

青い雲

教育目標
「めあてをもち　自分で考え　ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像：「あいさつ　がまん　あとしまつ」ができる生徒

村上市立荒川中学校
令和5年度　第12号
令和6年3月22日発行

今年度も大変お世話になりました

校長　渡辺　安治

日差しも春らしくなり、暖かくなってきました。今年度も今日で終わりです。卒業式が三月五日に行われ、たくさんの祝福を受けて五十九名が夢と希望を胸に荒川中学校を巣立っていきました。

（以下式辞より）

『荒川中学校を旅立つ皆さんに感謝し、はなむけの言葉を贈ります。それは「未来を信じて努力することが最後には光り輝く」です。コロナ禍、豪雨災害、元旦の大地震など、先が見通せない状況が続いています。今年は十二支五番目の辰年です。辰年は、草木が生長して活力が旺盛になると言われています。悪いことばかりは続きません。卒業生の皆さんの努力が実り、夢・目標がかなう一年になるでしょう。たとえ今年かなわなくても、努力を続ければ水面下で夢の実現は着実に育ち、次に繋がる年になると信じています。成功という芽が育まれていく年が辰年です。このことはあいさつ・がまん・あとしまつの「がまん」の先にあることを表現しています。今後の生活においては、つらく厳しい状況でも地域の方々がその姿で教えてくださった前向きに生きる姿勢を自らの生き方の拠り所としてください。心から応援しています。

地域の皆様、いつも生徒たちのことを気遣っていただきありがとうございます。ＳＤＧＳの視点を大事にした地域貢献活動も「地域に寄せる思いを表現する活動」「地域を元気づける活動」という形で、定着してきました。お世話になったまちづくり協議会の皆様をはじめ、荒川地区の方々からは常に元気・勇気をいただきました。荒川中にとって安心して頼れる、素晴らしい最高の応援団の存在に心から感謝いたします。ありがとうございました。』

式では、在校生を代表して　さんが「勇気と希望をもらった先輩に近づけるように頑張ります」と送辞を述べ、在校生の決意を示しました。卒業生代表の　さんは「後輩に伝統というバトンを渡す思い、先生方への感謝、前へ進む強い決意」を答辞として述べました。卒業生記念合唱「三月九日」は三年間を振り返り、卒業生が夢と希望に向かって歩んでいく決意の表れた美しい歌声でした。卒業生の未来が輝かしいものであることを心から祈りました。

今年度も地域の皆様からご協力いただいた様々な活動は、生徒が成長する貴重な機会となりました。今後に期待する生徒への励ましのお言葉もいただきました。感染症の影響を受け、厳しい学校生活でしたが一年間の当校へのご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。